i 45

Kitasato Memorial Medical Library

F
1-46

490.15
I
18 145
No. 2120

羽佐間先生口訣

為己執記

櫻寧軒藏板

富士川文庫
236
Kitasato Memorial Medical Library

為己執記序

吾門芝瓢居士曩者著老婆心書二巻將以濟此童之厄疾解愚母撫育之謬誤也用心可謂慈惠矣嘗語門弟子曰夫醫道大矣法於陰陽本自然之理可以心得不可以言傳可以養生可以保齡苟悟此道

者。通神明参造化。記曰君有病飲薬。臣先嘗之親有病飲薬子先嘗之由是觀之王公大人勿論焉自博覧多識之君子以至郷里市井之鄙夫皆亦可以不知醫也。故春秋以許世子不親嘗薬為弑其君是忠臣孝子之所以不可不鑑也。澆季之世醫者不務己之

事業。毎以張門戸。耽名利。為第一義。大異於古之真醫也。譬之儒者不知明己之心性。而徒以吐露偏見僻説。是非古人以為長策良謀也。豈非惟儒医為然而已。其他老佛百家亦復爾爾。吾師遍擬此書。以藏於篋笥。門人諸子請。繍諸棗梓。渉曰此書將以為子

Kitasato Memorial Medical Library

孫初學者而已何足示博覧多識之君
子哉。因門情止不置。於是師亦不得已。
遂授於剞劂氏。名曰為己執記。國字
記之。便於讀者易曉耳

文政龍次丙戌季冬

門人　備中松山侍医鈴木三悦甫序

為己執記

東都　羽佐間芝甗誌

孔子曰古之學者為己今之學者為人と有りて
孔子の頃まさへ古之學者と今之學者とあれバ
當時の学者為己せざる事を知べし為己何事
をや學ぶに一ッの大道ありその道と云をとまれ
ふま種々ありて道も多端となりて神道有り
佛道有り儒道有り然といへどもこの道乃字附
しも今ハ業乃字となりて神業儒業佛業まで

何もなりハひとまとまり道の字も中く容易ニ附たる道乃字にあらず論語にも朝ニ道を聞て夕に死とも可也又曰吾道一以貫之又老子ニも道の可道非常道とあるも至て大節の道ハ字なり皆く口先にてハ道くといへども扨是が道といふて教導するものなし況医道などにおいてハ道の字ニ心附ていふ人なし黄帝曰陰陽者天地之道也萬物之綱紀変化之父母生殺之本始神明之府也又曰在天為玄

在人為道在地為化化生五味道生知玄生神とありこの玄乃字道の字ハなまなかなれあやなふゆゑに附しや生殺乃本始変化の父母などゝいふ事を心にとめで是医するもの不知ハあるべからざるの道なり他業とちがひて医者ハ別る人の生活のことを専一ニ預ることなれバ今日活て働くところハ心といふもの儒者佛者神道者よりも猶更志らねバならざるの之真の道といふを得悟すれバ神者ハ天地と我と同根なることを實知し

Kitasato Memorial Medical Library

儒者ハ孔夫子の本懐にかなひ佛者ハ釋氏の直指に達せ是學ぶべきの肝要第一儀之道といふ人く口には説といへども真乃道と云處を見性せざるが故に分明にいふ事難しそのことを述んとすれバ書ても不レ盡口舌にも云難し故に易經に書不レ盡レ言言不レ盡レ意然則聖人意其不レ可レ見乎聖人立レ象以盡レ意とあり象にあらざれバ意を盡すことなければ心と意ハ體用にして心ハ體之その心より出る處にして意ハ用なり象ハ

たとへをもつていふべし絵ハ象なり今小兒に馬を画きて見せるに何ぞと問バ馬なりと答ふ又譬バ方圓といふをしらざる國あり至つて書く方圓のことを種々に解といへども通じ難し手をもつて丸と四角乃形をあらはして見すれ丸と角とを画とそれハ通ずること速なり通じ難きハ五色と五味とを涅槃經に如二生盲人不レ識二乳色一使レ問レ他といふことあり依レ之以心傳心といへり今一口にいふ時ハ心とも道ともいへども

なく真乃心真の道ハ知がたし故ニ心乃一字をさとらせんが為ニ聖人の大慈悲心を以て釋氏老子孔子その外乃聖賢の種々無量あり解きまふといへども通じ難し是則聞ども不聞喰へどもその味を知らざるとのたまひし處なり荘子ニ形骸の聾盲と知の聾盲とをいふ解ども不聞ハ知乃聾盲ニして親乃産まぬ聾といふべし即今唯今人々用ゐ居る處の心といふものあれバこそ東西へ奔走し南北へ飛歩行き

妻子眷属ともに育むに付てもその心と云ものをさとらざれバとて済ざれや能々思ひ考べし扨其心といふものハいかなるものや真乃心といふハいかなるものや知き難し又心といふより外ニ云べきものなし孔子も百姓日日用不知と仰られしに心附ずうかく眼をもちて手足を動し見なり聞なり美酒佳肴を喰ひ泰平乃御代の恩澤によりて人々心を自由自在に遣ひなかる心といふ物ハその物の指ニまかし

考へ附ざるハ何事ぞや心なればこそ眼もうごき
足も動きもどふして動するひとりでに動くと
思ふハ鳥獣同様と云ものゝ故に孟子曰所以
異於人之禽獣君子者存之小人者去之と有
なるく君子なる人ハ常に我ハ禽獣同様と思ひ存
するが故に禽獣界をまぬかれ小人ハ禽獣同様
とハ思ひもよらねバ常に去居故に禽獣界をまぬ
かれず佛書に人面獣心と云又ハ畜生土と云な
ならるゝたぐひなり是知らずんハあるべからず

ざるの心法也古ハ神道儒道佛道ともに此教
有し故に神道に静心安坐と云あり儒道に
静坐工夫といふ事あり佛道に坐禅工夫あるを
然るにこの事衰へ絶てひとり禅宗にのみ残
なりて坐禅観法あるハ大幸といふべし是まで古ハ
神儒佛ともに静坐工夫といふ事ありしを
察し知るべし然りといへどもその禅家にも近世得
達大善知識ハ尤稀なり況醫道におゐてハ醫
道の心法静坐といふ事を教示する人更になし

人の生活乃根元病疾の痛苦を覚るも心なれバ医者たる者ハ別て得道すべき第一なり儒道にて天命之謂レ性率レ性之謂レ道脩レ道之謂レ教となり是即心法乃ことなり此世へ産ミ出れバ心あり心ハ即天の命ずる性なりその性に率道なり論語に子貢曰夫子言二性与天道一不レ可レ得而聞一也已となり子貢程乃人さへその時漸初て聞得たりとあれバ今時乃人何ぞや孔子の性と天道を仰られしを孔子の側にて直に聴聞する

とも聞得べきや故に黙識静坐工夫のなる処なり中古韓退子曰孔子傳二孟軻一軻之死不レ得二其傳一焉となり孔子の傳ハ孟子にて絶てその後年暦を経て韓退子ハ獨その傳を得たる様になれども佛老を毀まり孔子乃傳を得たるなれバ何ぞ佛老を誹謗するならんおりふし韓退子の頃佛老の道盛に行まし其弊を救せんとして佛老を毀るなりやその後の儒者ハかゝることも弁へず儒者ハ佛老を毀るもの

Kitasato Memorial Medical Library

極に思ふハ真道を得ざるのことを明し韓退子程乃
大儒孔夫子の一貫に心附ざらんや神儒佛
ともに心法のことをいふハ鼎の三足の如くにして
各名を異にして同一物なり天地乃内に何ぞ
心の外に道といふものあらん然るに儒にて佛を
毀り佛にして神道を誹謗し彼ハ非にして我ハ
是と云又ハ同し釋迦宗にして彼宗旨ハ非我
宗ハ是といふハ各真の儒道神道佛道を得ざる
の誤なり譬バ手桶の中の水と水瓶の水と我ぞそ

本とうの水と云て争ふごとし何道にても
真の道といふものを得悟したる上にて是非をところ
なり水晶輪を以て黒白をみるよりも明白なり
實に得道したる者ハ他の道といへども毀ること
あらんや前にも云ごとく道ハ一貫にして各名を異に
すれども四海同一鹽味あるが如し然といへども書
籍の上にて知ることにあらず故に書ハ不盡言と
聖人も作られたり博学多才の人なりとも中く
大道ハ志れ難し文字の上にてハ一大元氣との萬

物一氣といふ陰陽といふ書どもそれにて知を得ざり
ともいはれまじそれはふくよりしかども許されまじ口先
にて一大元氣のといへども真の一大元道と知得と
云ふハ有まじ書籍の上にて知することなむ聖
人乃別は象を立ることを仰られ又静坐工夫のと云
およばぬことなり黙識工夫して大道を得悟せ
ざれバ儒とハ云雖し神道も萬物の霊と同體と
云ふ処を實知なくてハ真乃神道者と云雖し
佛道も迦葉へ附属の大道を見性せざれバ佛

法の大善知識と云雖したとへ心道乃事を
いはずとも神儒佛ともに道と云て門人に傳導
もべきことなれども医道においてハ是こそ醫乃大
道といふことハ門人へ傳教するこれ道と云ハなく但
病人を治療することを医道と思ひ名方奇劑を傳
授と心得門人も是ばかりのことを医道の皆傳秘密
と思ひ孔夫子の曽子一唯釋尊の摩訶迦葉に
附囑しめし處の的くれ傳法と同格と心得居る
こと可笑可歎乃至て之医道も古ハ道と云の

Kitasato Memorial Medical Library

大道ありその大道を得悟し家乃醫道
するべきもなくして医業をする故醫道に
いんや仁術といんや医れ道云ハ中ゞて治療の
名方のと云ふるのみにあらば譬佛道乃唱
名念佛ハ枝葉にして根本は佛法の大道有
医道も治療名方ハ枝葉にして根本の医法
の大道ある枝葉を信じて根本大道をしら
ざるを佛道医道と云べきや爺婆も乃明暮
唱名念佛數珠ハ寸の間も指をはなさず是を

佛道の大奥儀を得たりとおもふべきや醫
者も朝夕治療し藥を持あるく藥種
屋の番頭も薬を調合治療もすれバ同様と
云べし是を医道の大玄道を得たりといふ
なきの医ハ仙術とかりて古人も醫ハ性
命の原を究めて藥を施すとあり真道を
究得せずして治療するハ實に末を信じて
根本を捨るなり臞仙曰古之神聖之醫能療
人之心預使不致於有疾今之醫惟知療人之

疾而不知療人之心是猶捨本逐末不窮其原而攻其流欲求疾愈不亦愚乎雖一時僥倖而安之此則世俗之庸醫不足取也と有又病て薬せざる中医にまさるとも薬の為に黄泉の客となるものあり毛をふいて疵を求むといふものにて是皆大醫道を究明せざるの誤なり病者乃非命に死するを薬を与へて是を救ふの故に仁術なりといへども仁ハ仁なれども小仁なり譬バ今貧に迫りて餓死せんと溺死せんと

ある者あるを金銀をあたへてその命を救ひ助るの是も仁なり孟子の所謂赤子之将入於井怵惕惻隠之心仁之端也となり而是も小仁や仁も天下乃仁といふ古語にも良将となる事を不得ハ良医となれとあり十人百人を治療するを良医といふべしや天下を醫といふ國を医といふをみるべし又一人流行医者なるとも國中は治療ハなるまじ是医の大道法を以て國に弘めて人心を医するは處なり

若神儒佛の法の無之國なくバ医道ともろく
天下國家とも治むるの法ふハあらざれバ医道と八
いへれまじ十人百人乃治療ぶされバとて天下を
医治するとも良将良医ともいふれまじ天下國
家を治る程の道あるが故ふ医道とハいふなり神
道佛道儒道と同一の医道なることをしるべし抱朴
子曰一人之身一國之象也胸腹之位猶宮室
也四肢之別猶郊境也骨節之分猶百官也神
猶君也血猶臣也氣猶民也知治身則能治國

矣夫愛其民所以安其國惜其氣所以全其身
民散則國亡氣竭則身死死者不可生也亡者
不可全也是以至人消未起之患治未病之疾
医之於無事之前不追於既逝之後夫人難養
而易危云云然後真一存焉精神守焉百病郤
焉年壽延焉となり素問曰心者君主之官神
明出焉肺者相傳之官治節出焉肝者将軍之
官謀慮出焉云云故主明則下安以此養生則
壽歿世不殆以為天下則大昌となり是皆治

Kitasato Memorial Medical Library

國家の大法なれバや故に医道とあはせて古より
道乃字附られ大道たり世界に神儒佛の
法の無レ之已前より歴然として有レ之尊道なる
を思ひ察すべし上古伏羲神農黄帝又日本
にてハ大己貴尊少彦名尊の頃神道佛道儒道
ともになし釋迦も孔子もなきはるのちなり
その頃よりして医道有りて各医道ハ脩し来
り又ハ丹波康頼和氣清麻呂菅原岑嗣唐土
にても岐伯雷公張仲景に皆々天子或ハ諸侯に

奉り医道を脩したまふの人々なり医者と
思ハるべくバ當時乃格に医を業として療治
しるからさまひし人々にあらバ性命ハ人の
本なるが故に志ある君子ハ皆医道を脩し
たまへりその頃外に常ぶべき道とはおも無レ之
世なり身なく而後乃行ひ故第一番に醫
道を脩得して後諸道を脩行すべし小學曰
病臥ニ於牀一委ニ之庸医一比ニ之不慈不孝一事レ親者亦
不レ可レ不レ知レ医とあるバや是人々医道を心掛

Kitasato Memorial Medical Library

されとの教なり故に神道者も佛者も儒者も
士農工商町人も百姓も生としいけるもの脩行
すべきの大医道なり士農工商とも神儒佛の
三道を信ずれども性命は原道なる大せつの
医道なるに心をつけざれバ古の聖賢ハ医道専一なり
神儒佛醫の四ッハ東西南北乃如くにして
一もかくべからざれバ人々この四ッをもつて我身を
脩行し達して後子孫へ教示すべき事なり
孔子曰己欲達而達人とあり医道を脩して

後儒道佛道も脩行すべし医道に神儒佛
同根にて根本の廣大無極の大玄道あれバ心
をつけざれバ枝葉を信じて根本を捨るは可歎可
悲の至りならずや人の性命ハ第一初にして
医道にありて現在今日乃上になり人々医の
玄道を得悟せざれバ故に養生の道理に暗
し養生を知らざるが故に病に苦ミ非命之死に
逢ひ父母妻子にわかれ愁も多し是醫
道を脩行せざるの誤なり男一人なる者幼兒婦

Kitasato Memorial Medical Library

女子乃如く他人の手に治療を與んや我も
家手ふ平生医道を修得し病れ来る時ハ獨自
治療して長生不死延年の法を量て薬も製
服をべきなり大丈夫なる者何ぞや庸医の下に
膝を屈めて己が喰ふべき食物を問ひ何卒今日来
觴を飲ふのと二ツとなき大切の一命を他人に託すべきや
況君父の命をや又君父なる者も我と医道の大奥儀を
得悟されバ庸医の薬を服すべけんや故に己が為
ましく上天子より諸侯を初め志ある人々ハ當時の

神儒佛を信仰する如く為己に医道を脩し
養生を守て長生延年して君父に忠孝を盡
きり短命にてハ孝悌忠信も行ひ難し予がいふ
處の医道ハ第一の仁道にして人たる道乃根元
なり中庸にも仁者人也とありて是人の性命の
原首より伏羲氏神農黄帝我 朝にも神代
より医道ありて既に大巳貴尊少彦名尊を初め
医道を脩したまへて世界に神儒佛の道れなき
時より歴々然として有しこと至高乃大原道なる處

能く味ひ察知せざるべし今時ハ豆腐屋同然にて
隣にも医者あれども山野幽谷の医者ハなき所に
とり揚げ婆ゝも医者も自らなはにあらバや人ゝ
この世へ産れ出るや否やまくりといふ薬を飲成
育するハ乳といふ薬を呑ミ飯を喰ふハ皆ゝ医道
とも思ハずして医するにあらバや是先賢の教へ
置れし大医道也親たるもの兼る医道乃大玄
儀を修得して幼児の病ありと見ハ薬剤を施し
非命を救ひ追ゝ成長にしたがひ医道を脩して
我と我身ハ養生を守て身体を健固にして家
業を務め君父に仕へ又我子孫へ傳ふるなり
是則親ニ事る者不可不知医といふ処也老てハ
子にしたがふの道にて父病时ハ子薬を嘗むる
むや君臣父子士農工商ともに信仰し崇
尊すべきの第一乃医道より鶴亀の掛物に長
生を祈るが故なり画餅腹を肥さず医法にあら
ずして長生乃法あらんや今神儒佛を尊敬せる
如く第一に医道を信仰して得悟すべし神儒

佛ハ家ごとに神棚をかうけ佛間を置儒家へも
入門して其の大道ハ得ざれども脩行をなさるゝ乃
志なり神儒佛ハ尊信しながら我が命の源なる
医道といふハ信仰なし医者乃するわざとのけもの
にして置ども神儒佛までハ長生延年も出来
まじ諺にも命ありてこその物種といふわけにて大
せつ乃一命なり然るにその命乃鍵を他人の
庸医にあづけ置金箱乃鍵ハ我腰に附置も何
ゆゑぞや其ゆゑ数萬金あれどもとく死出の旅へも

持行ことならバ金で買れぬ金より大せつ乃命
の鍵を縁もなき庸医に預け置る事不用心といハ
んや薄氷といはんや故ニ非命に黄泉の客となる
者多し医道といふを別業として人々心掛ざるの
誤なり庸医も仁術乃医道のといへども薬を商
ふを同やうなる何が仁術といへバ人を助るの薬を
施が故に医道といふ左すれバ米屋も人を助る米を
施す故米道といふなれか米屋も問屋より玄米を
買受て搗揮して是を商ふ医も薬店より薬を

買受て搗揮してこれを施すに少しハあるハゝハ
されども米道屋と彷彿たり医のミになれバ何道
なりともその道の大奥儀を得悟せバし宗
教示をハ道と云ふなれバ何れも業といふべし
何業なりとも先医道を脩して後諸道を脩も
べしかるに医道を心掛る人あれバ尊誉べきこそ
あるにさいへその人を笑ひ謗る人ハ不慈不孝の
者といふべし尤医を心掛るといふともたゞ兵法の
大疵と云るなれバ是又庸医に劣るべし医道の

大玄儀を得悟せざれハ生活自在の妙用も知まじく
真の心乃養育の薬も知まじく何ぞ庸医と異るす
なし返すぐも人ゝ脩得なすべきの大原道なる故は
儒佛神医之四道ハ士農工商ともに脩行すべき
其の尊道也士農工商脩し学びたれと云人なれバ
教導すべき為の神道者之佛者之儒者之医者之
神道者ハ御師乃号なるハ　日本國中へ神道を
教示すべきとの　勅許の師範者なる故に御師と
いふなり然るに是も此頃よりハ師範のなき少

Kitasato Memorial Medical Library

しをなくて御祓暦を賣歩行も同やうのことゝ
ありて神業乃ありいひとゝありぬ儒師も医師も
師の字の附ハ師範者ふて皆ゝその大道を脩得
しく教導ともなるゝに何れも業となれる六根清浄
之祓と云歩行も唱名念佛と云歩行も素読講
釋も療治すれども枝葉ふしてそれより根本乃至
道へ引導すべきの師範者ゆゑその師範者も至
道を會得せざるが故ふ枝葉を至道と心得家業と
思ふ門人なんぞ至道得悟するゝや己さとよく道ふ

達して而後ふ人を達の處なればや佛者も
自己見性徹悟して而後衆生を濟度し医
者も自己生活自在の大道を徹底實知して
而後治療も施し人ふも教導すべきなり神道儒
道も何きも同様なるべし然るに佛僧自己見性
乃徹悟をなく人を引導し儒者も窮理盡
性豁然貫通して而後聖賢の大道を教講に
べきを然らざれバ何れも導師とハ云難し一人虚
と傳ふれば萬人實と傳ふといふ一犬虚を吠れバ

群犬是を和すといふ是一盲衆盲を引とハあ
らのゆゑなるべしその自己發明乃脩行するに
神道より道に入るも儒佛医乃道より道に入
るも大道と見性をなし入道と云ハ佛法のこと
思ふハ佛道ハ盛にして神儒医に静坐工夫の
事絶ていふ人のなれ故なり何れの道も入道
なるべし論語にも本立而道生と有又曰人
能弘道非道弘人とあり道といふも多端となり
されども四海同一塩味なりその内医道ハ性命の

原道なれバ上古ハ医道乃元なり故に人々先ず
一に医道を脩得し身体を健固にして而後ち
身そのその家業乃道を勉励すべし神道者も儒
者も佛者も士も町人も百姓も活ことし居る
もの不可不知乃日々入用の視たり聴たり言
動の主人公なり猫も犬も他に不問して嗅ぐ
毒なれバ不喰ハ自然と医するの道を知るなり
まして況や人として我が身体を医せざるなんや孔
夫子も百姓日用不知と又曰道者須臾不可

離可離非道と又曰天地之道可一言而盡也其為物不貳とありて一貫にして不二乃一なり佛者の所謂萬物無一物となり又未齋丘曰忘形以養氣忘氣以養神忘神以養虚只此忘之一字則是無物也本来無一物何處有塵埃其斯之謂乎となり何をも根元や心乃一物なり即心即佛といふ見性成佛といふ心は則天の命する処の性にして性に率道なり中庸に天下至誠為能盡其性能盡其性則能盡人之

性となり性命は曰く生活自在の視聴言動するの妙道なるが故に是を知得られば此の生活する物には何藥哉用ひてすれとはよろずを知り不知ものは是も藥なれも薬かと思ひ迷ひ本草中をたづね求むとも不可得なり眼前にその妙藥ありとも見れども不見聞ども聞えざれバ長生延年の法を志あるといへど医の大玄道を知らざれハ誠の養生の妙方も不知が故に齟齬の薬を用ひて百歳之壽も天然を経ずして半途に倒れ

治せざるの病も薬の為に非命の死を見軽病
も重きに至り大せつなる君父乃病も庸医に委ぬ
程伊川ハ大儒とよぶべし事親者不可不知医
といへり丹溪曰人之生与天地参坤道成女乾
道成男配為夫婦云云又曰人身之貴父母遺
體為口傷身滔滔皆是人有此身飢渇洊興乃
作飲食以遂其生眷彼昧者因縦口味五味之
過疾病蜂起病之生也其機甚微とあり日に三
度の食事なればとて医者の宅まで問ふ役

ならざれや是我と医道を心がけて脩行しその性
命の原を究むべし聖人も窮理盡性とハ仰せ
られより孔子を理学者のと誹謗す
べかり佛者の見性成佛といふも能物の性を見
窮むる故に成佛の境界なればや是則天眼通なり
その天眼をもつて肉眼の凡界を見るときハ善悪
邪正分明なり医道も性命の原を把握して病
天眼通をもつて病の善悪邪正を見るときハ臟の
一方の人を見はかるべし大白道人曰欲治其疾

Kitasato Memorial Medical Library

先治其心必正其心乃資於道云云此真人以道治心療病之大法也と又曰至人治於未病之先医家治於已病之後治於未病之先者曰治心曰修養治於已病之後者曰藥餌曰砭焫雖治之法有二而病之源則一未必不由因心而生也とあり孫真人曰雖常服餌而不知養性之術亦難以長生とあり予云医道をもて性命の原明徳の玄旨に達して性を養ひ身體を健固にして忠孝を尽し其心を正し其意

誠なるが故に家齊ひ國治るなり恬惔虚無にして真氣従之精神内に守れバ我より生ずるの病苦なく邪念発らず不惑其心人と争ず道に相合すれば故に皆能長生延年にして天下平なり國家医せずといふなし岐伯曰上古之人其知道者とあり中庸にも道不遠人人之為道而遠人不可以為道者とあり何も人たるもの悟道ハせねバなるまじきなり釋氏孔子の頃ハ凡それとて書籍といふ物ハ一冊もなし道ハ悟

ひとを教示したまはんが為に種々無量に仰せ
られしを追々に書付しが後に書籍となり
御経といふ釋尊孔子を博学といはんや子曰
賜也女以予為多学而識之者乎對曰然非歟
曰非也予一以貫之とありしぞや佛書にも諸経ハ
月を教る指の如し月を知を得るときハその指ハ
いらぬものとあり又程子曰今人乃謂聖本生
知非学可至而所以為学者不過記誦文辞之
間其亦異乎顔子学矣とあり孔子も道不行

乗桴浮于海従我者其由乎と歎せられしあり
素問霊枢といふ古書も真偽知がたし先
人も疑へどもさて真書なりとも書不盡言とあり
又孟子曰盡信書不如無書ともありて素霊の
意も文字の上にてハ知れ難し故に静坐工夫に
して医道の玄旨自己生活自在視聴言動乃
妙用を見性徹底實知して古人の大意を不知ハ
真医道とハ云まじ中庸に子曰道之不行也我
知之矣知者過之愚者不及也とあり又論語に上

Kitasato Memorial Medical Library

知与下愚不移とあり予初老過てより門人ふ志の玄青道を教導もろに過と不及と移と不移をあれを實ふ知まり釋氏も縁なき衆生ハ度し雑しとのことふ大聖ハ幾千歳の昔にありなからまるで今日を尽しめまふやと真ふ尊み至れり実ふ文字言句の及ぶ所ふあらずと達摩大師も不立文字直指人心見性成佛とのことまい篤志の輩寝食も忘る程勇猛ふ静坐工夫窮理見性もべし大禅知識も腥臭坊主も顔色も袈裟

衣も同様なれバ見聞ふてハ知れ雑し大導医も番頭医も顔色も羽織衣類も同様なれバ是も又見聞ふてハ知れ雑し歐陽永叔曰学書當自成一家之體但摹倣他人謂之書奴とあり医もまた是と同じ医奴多し何ぞ自己見性せざれバ善悪邪正ハ見え雑し自己生活自在の妙用を知らざされバ其生活すれゝものにハ何薬がよかろや又養生の筋も知れ雑し業の為ふ非命に夭折れ患もあるなし人ゝ第一ふ医道を脩得して後面ゝれ家

Kitasato Memorial Medical Library

業と務べしこれ人道の礎にして人たるもの大むねの至道なり古人之曰人受先人之體有七尺之軀而不知医事此所謂遊魂耳雖有忠孝之心君父困危赤子塗地何以濟之此聖賢所以精思極論欲盡其理也又曰人子事親学医最是大事今人視父母疾一任医者之手豈不害事とあり是士農工商ともに医道を修得し置べきものなり道と云ものは古より佛道の儒道のと種々教示ありといへども得道する人甚稀なり

況や今新に人々医道を修行すべし此云とも志をあらましは知れども佛道儒道とちがひて今目我が活て働く処れ見たり聞たり着たり喰たり自由自在に活てゐる知らぬといふて濟べきや寸暇も活のはなれぬ日々そのおかげにて神道者も佛者も儒者も士も町人も我が家業をつとめ妻子眷属とも育むにいたるぞやその活て働くもと知るにときよけれバ動もやめ出る息吸息もせぬがよしこの性命れ玄旨を活のいぬものハ一人もいるまじ

古人曰人大事莫踰生死駒隙百年誰保無恙
となり不可不知の大医道なるべしや又曰人生氣
中如魚在水中水濁則魚瘦氣昏則人病となり
救正論曰行医不識氣治法從何據堪笑となり
李東垣曰氣者神之祖精乃氣之子氣者精神
之根蔕也となり茅真君曰氣是添年藥心為
使氣神若知行氣主便是得仙人となり龔信
曰一与事應則視聴言動皆耗散精氣之原故
釋氏面壁仙家坐關皆等基煉已苦行以防耗

此神氣便是長生之術となり葉敬君曰合天
地人性命為重命從誰生命者曰父母となり
是則人の命ハ元なるが故に修行するぞの大道なるを
必医業と別ものなれバ諸人の修得もなるべからず
医道なりかくの如く千言萬舌弁示すといへども
とも取行ふ人もなるまじ予が精意上天も感應
なくバ末世出現之佛と云ふもなれがたし淺世に
開くんと云ふもなるまじ万に一二も如此の医道を
修得なる人なくバ予が大幸百年の後くありとも

Kitasato Memorial Medical Library

霊魂をそぐて欣躍するとし人の為にするの道にあらず
人々己が為にするもの仁道なり是その大凡を示すと
而已自己性命根本の醫道乃玄旨を得悟するを
予門是を免許皆傳と云

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library